

日留賀岳

M・T

期 日：5月2日（金）

コース：小山氏宅標高660位7：01→鉄塔7：44→木の鳥居10：48→金属の鳥居12：12→山頂近く1840m12：30→鉄塔15：32→小山宅15：50

報 告：

個人のお宅が登山口であり庭先に登山届まで置いてある。小山さんは日留賀岳神社の主守さんらしい。神社を守っているのだから登山者を暖かく見守っているのかもしれない。登り4時間40分、下り2時間40分。計7時間40分の行程。焦らずに行くことにする。庭を突っ切って裏山に登る感じで山行は始まった。すぐに鳥居があり祠も有ったので一応無事登山を祈願する。庭のシャクナゲが綺麗だ



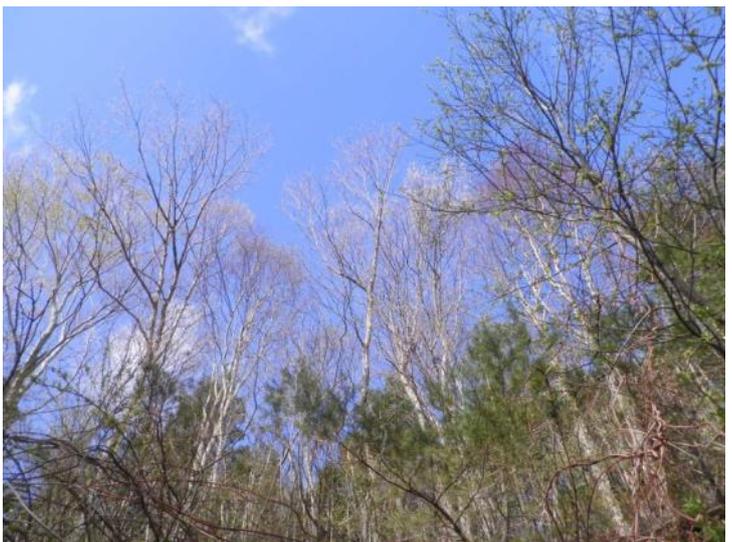
った。

30分程杉林の中を進むと鉄塔。

見上げた鉄塔は青空に引き込まれていた。



鉄塔を過ぎると林道歩きが始まる。林道脇の林も綺麗で白樺が映える。



余りにも綺麗なのでつい何時何度でもシャッターを押す。白樺を貴婦人と表現するのが理解できる。気持ち良く歩く。



シラネ沢林道終点から登山道になる。ここまでのアプローチが長い。白樺林が続く。次は落葉松林。11300本植林と有る。

落葉松の芽吹きは綺麗だが、まったく芽吹いていない。一応、空に向かって落葉松の木もパチリ。



足元の都笹の中にはカタクリの群生地があったが花には早すぎるのか咲いている数は少なかった。

気持ちの良い緩い林の登りがいつまでも続くように思われたが、道はだんだん杉林と変わ

り怪しげな雰囲気になってきた。いきなり折れた杉が行く手を塞ぎ道も見えなくなってきた。



今日もコンパスのお世話になり覚えやすい場所を歩いて行く。



杉林と表現したが、後で調べたらここがアスナロ林でした。木肌が赤い。



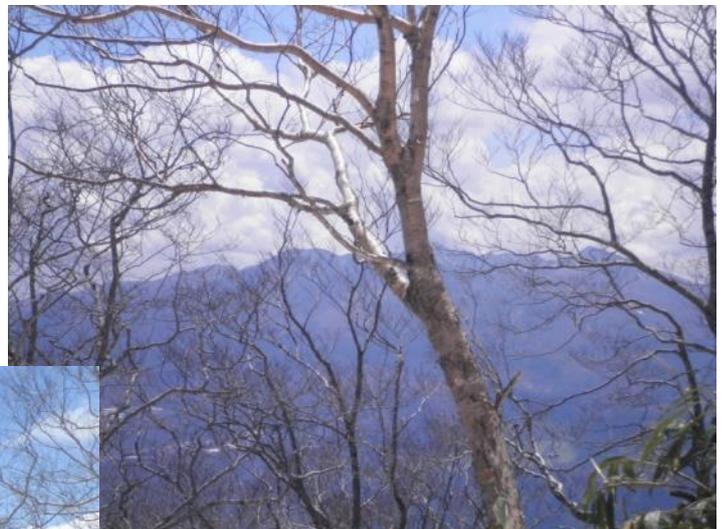


荒れた杉林を抜けると大きな木の鳥居が出現。何となくお辞儀をして通り抜ける。鳥居から30分弱歩いた時、もしかしてこれは？一つつまんで臭いを嗅いでみる。臭い。間違いなく行者にんにく。10年近く前に



北海道斜里岳で6月1日に地元の人に教えられて採取して以来である。春早くの山行で根本が赤みがかかった草を見るとつつまんで臭いを嗅いでみるが行者にんにくには行きあたりなかった。ガイドブックでこの辺りは行者にんにくが多かったが最近は少ないと読んでいたので、気が付いた。周囲をよく見ると有る有る・・・沢山ある。登山道脇に、ササの中に葉を伸ばして来ている。人生2度目の行者にんにくとのご対面に一人感激。はしゃぎまわる。いけない事とは知りつつも葉をつまんで帰宅後のお腹へのお土産に少しだけ頂く事にする。昨夜、お腹に収めたがまだ生きているし、にんにくの臭いが強いので間違いのないと思う。人体実験済み。最初、臭いを嗅いだ時は庭の野蒜を思い出した。

木間越しに見た事のある形の山が目につく。右端の山は苗場山？口に出して当たった試しは無いが、ここで地図を出して調べる事もせずに終わらせる。いつもの事です。



気が付くと杉林は終わりまた綺麗な景色が目映る。アスナロの赤い木肌が目立つとガイドブックに有ったが、どの木だか解からず仕舞い。今、調べたらアスナロはヒノキ科常緑針葉樹と有った。先程から杉林と表現していた林がアスナロの林だった。杉、ヒノキ、アスナロ、・・・葉の違いを覚えられない。杉の葉はぼうぼうで立体的、檜

は平べったいと教えられた事が有るが。



木の根元に立てかけられた金属の鳥居。ゆっくり来たが、きつい登りが続いていた。途中、倒木と残雪で登山道が見つからず探す事も有ったが不安の有る道では無かった。この雪の急坂を登ったら山頂。逸る気持ちを抑え昨日の失敗を教訓にアイゼン装着。

登って見ると見事な眺望。
山の名前がわかる人にはたまらない眺めだろうと思う。
着いた所からの眺望は最高だが、祠が見つからな



びっくり。前方に新しいピークがそびえ立つ。

い。ここは山頂と思って上ってきたから、



がっくりするやら、驚くやら。いずれにしても、これ以上登る時間が無い。足元は松が雪に埋もれ歩く場所を探すのが大変。雪の上に座るのは辛いので少し下って昼食とした。食べながら、何でもう少し先迄歩いて探さなかったのだろうと後悔するが、外したアイゼンを再度装着するのも厭なので諦めた。悔しい思いがあられて来るが仕方ない。諦めて引き返す。下山しながらも後ろ髪をひかれる思い。約束の時間に間に合ったがどこか納得がいかない。車の中で山頂の筈なのにとシツコク話す。夜、ゆっくり地図を見る。山頂は等高

線が緩みその中を行く事になる。どう考えても最後の写真の左手になる筈。近くまで行ったのに探さずに帰ってきたことが悔しい。目の前のピークに負けた。もう登る力は無いと思い込んだのだ。その場で地図を見るべきだった、すごく悔しいので、近いうちに再度チャレンジすることを考えている。